



## 2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年11月12日

上場会社名 日本プラスト株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 7291 URL <https://www.n-plast.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 永野 博久  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画本部長兼 (氏名) 豊田 剛志 TEL 0544-58-9080  
 管理本部長  
 四半期報告書提出予定日 2019年11月12日 配当支払開始予定日 2019年12月9日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有 機関投資家・アナリスト向け

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第2四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	54,392	△2.6	2,208	5.7	1,940	△9.1	1,174	△21.4
2019年3月期第2四半期	55,843	△2.8	2,089	18.3	2,134	13.4	1,494	52.8

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 352百万円 (△49.2%) 2019年3月期第2四半期 694百万円 (32.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	60.60	—
2019年3月期第2四半期	77.06	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	73,484	33,758	45.9
2019年3月期	76,367	33,600	44.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 33,758百万円 2019年3月期 33,600百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	8.50	—	10.00	18.50
2020年3月期	—	10.00	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	105,000	△9.1	3,500	△36.1	3,100	△43.0	1,800	△53.6	92.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（2019年11月12日）公表いたしました「特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2Q	19,410,000株	2019年3月期	19,410,000株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	25,015株	2019年3月期	24,309株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2Q	19,385,357株	2019年3月期2Q	19,386,524株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
(セグメント情報) .....	8
(重要な後発事象) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用環境は底堅さを維持し、個人消費や設備投資等の内需が堅調に推移しているものの、米中貿易摩擦の深刻化、世界経済の減速等の影響を受け、力強さを欠く状況にあります。一方、世界経済においては、米国の雇用・所得環境は底堅さを維持しており、中国経済は政府の景気下支え策等により、大幅な落ち込みを回避しているものの、長期化する米中貿易摩擦問題が世界経済に与える影響が懸念される等、先行きは不透明な状況にあります。

このような状況の中、当第2四半期連結累計期間における売上高は、主に北米での得意先の減産影響及び中国でのフルモデルチェンジに伴う仕様差等により前年同期比2.6%減の54,392百万円となりました。損益面では、減収影響はあるものの、北米での新車効果等により営業利益は前年同期比5.7%増の2,208百万円、経常利益は為替影響等により前年同期比9.1%減の1,940百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比21.4%減の1,174百万円となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

## ① 日本

国内の売上高は、得意先の減産影響はあるものの、新規車種立ち上がり等により17,232百万円と前年同期に比べ443百万円(2.6%)の増収となりました。セグメント利益は、車種構成差、新規車種立ち上がりによる費用増加及び次期車開発費の増加等により281百万円と前年同期に比べ49百万円(△14.9%)の減益となりました。

## ② 北米

北米の売上高は、セダン系車種の販売不振及び得意先の減産影響等により22,670百万円と前年同期に比べ897百万円(△3.8%)の減収となりました。セグメント利益は、減収影響はあるものの、新車効果等により474百万円と前年同期に比べ294百万円(164.0%)の増益となりました。

## ③ 中国

中国の売上高は、得意先の減産影響及びフルモデルチェンジに伴う仕様差等により12,489百万円と前年同期に比べ1,564百万円(△11.1%)の減収となりました。セグメント利益は、減収影響等により1,141百万円と前年同期に比べ360百万円(△24.0%)の減益となりました。

## ④ 東南アジア

東南アジアの売上高は、前突系安全部品の新規立ち上がり等により1,999百万円と前年同期に比べ566百万円(39.5%)の増収となりました。セグメント利益は、増収影響及び新車効果等により288百万円と前年同期に比べ75百万円(35.6%)の増益となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、73,484百万円となり、前連結会計年度に比べ2,883百万円減少しました。これは原材料及び貯蔵品の減少965百万円、機械装置及び運搬具の減少912百万円及び現金及び預金の減少504百万円が主な要因であります。

## (負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、39,725百万円となり、前連結会計年度に比べ3,041百万円減少しました。これは支払手形及び買掛金の減少2,532百万円及び短期借入金の減少841百万円が主な要因であります。

## (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、33,758百万円となり、前連結会計年度に比べ157百万円増加しました。これは利益剰余金の増加980百万円及び為替換算調整勘定の減少692百万円が主な要因であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期通期の連結業績予想につきましては、当第2四半期までの業績等を踏まえ、2019年5月13日に公表の業績予想値を修正しております。詳細は、本日別途発表の「特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,819	10,314
受取手形及び売掛金	13,729	13,758
製品	1,843	1,582
仕掛品	988	940
原材料及び貯蔵品	10,720	9,755
その他	2,486	1,864
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	40,584	38,211
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,885	9,509
機械装置及び運搬具(純額)	11,776	10,863
工具、器具及び備品(純額)	3,874	3,396
土地	4,435	4,430
その他(純額)	930	3,079
有形固定資産合計	30,902	31,279
無形固定資産		
特許権	437	375
その他	1,168	425
無形固定資産合計	1,606	800
投資その他の資産		
投資有価証券	2,460	2,307
繰延税金資産	216	247
その他	606	646
貸倒引当金	△7	△7
投資その他の資産合計	3,274	3,193
固定資産合計	35,783	35,273
資産合計	76,367	73,484

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,783	10,251
短期借入金	9,944	9,102
1年内返済予定の長期借入金	3,309	3,153
未払法人税等	200	169
賞与引当金	988	643
役員賞与引当金	98	40
製品保証引当金	145	143
その他	5,341	6,297
流動負債合計	32,810	29,802
固定負債		
長期借入金	6,518	6,506
繰延税金負債	185	257
退職給付に係る負債	2,481	2,395
役員退職慰労引当金	506	510
その他	263	253
固定負債合計	9,955	9,923
負債合計	42,766	39,725
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,206	3,206
資本剰余金	5,213	5,213
利益剰余金	28,288	29,269
自己株式	△15	△16
株主資本合計	36,692	37,672
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	717	594
為替換算調整勘定	△3,876	△4,569
退職給付に係る調整累計額	67	60
その他の包括利益累計額合計	△3,091	△3,914
純資産合計	33,600	33,758
負債純資産合計	76,367	73,484

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	55,843	54,392
売上原価	50,119	48,438
売上総利益	5,724	5,953
販売費及び一般管理費	3,634	3,745
営業利益	2,089	2,208
営業外収益		
受取利息	38	56
受取配当金	35	38
投資不動産賃貸料	32	32
持分法による投資利益	14	9
為替差益	12	—
受取和解金	84	5
補助金収入	11	66
雑収入	67	77
営業外収益合計	297	286
営業外費用		
支払利息	205	218
為替差損	—	280
雑損失	46	55
営業外費用合計	251	554
経常利益	2,134	1,940
税金等調整前四半期純利益	2,134	1,940
法人税等	640	765
四半期純利益	1,494	1,174
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,494	1,174

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	1,494	1,174
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	77	△123
為替換算調整勘定	△862	△692
退職給付に係る調整額	△15	△6
その他の包括利益合計	△799	△822
四半期包括利益	694	352
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	694	352

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

当社グループの一部の在外連結子会社は、第1四半期連結会計期間より、IFRS第16号「リース」を適用しております。これにより、借手のリース取引については、原則すべてのリースについて使用権資産及びリース債務を認識するとともに、使用権資産の減価償却費とリース債務に係る支払利息を計上しております。本基準の適用にあたっては、経過措置として認められている、当該会計基準の適用による累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、従来無形固定資産の「その他」に含めて記載しておりました土地使用権につきましては、使用権資産として有形固定資産の「その他(純額)」に含めて記載しており、その金額は963百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

## (セグメント情報)

## I 前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	日本	北米	中国	東南アジア	
売上高					
外部顧客への売上高	16,788	23,567	14,053	1,433	55,843
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,880	48	1,505	2,555	6,989
計	19,668	23,616	15,559	3,989	62,833
セグメント利益	330	179	1,502	212	2,225

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,225
セグメント間取引消去	△139
その他の調整	3
四半期連結損益計算書の営業利益	2,089

## II 当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	日本	北米	中国	東南アジア	
売上高					
外部顧客への売上高	17,232	22,670	12,489	1,999	54,392
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,561	42	1,323	2,860	6,787
計	19,794	22,712	13,813	4,859	61,180
セグメント利益	281	474	1,141	288	2,186

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,186
セグメント間取引消去	21
その他の調整	0
四半期連結損益計算書の営業利益	2,208

(重要な後発事象)

当社は、2019年10月30日付で当社の持分法適用関連会社であるエヌピー化成株式会社の全株式(45,000株)を、譲渡価格39百万円で日新明弘テック株式会社へ譲渡いたしました。

これにより、2020年3月期第3四半期連結累計期間(2019年4月1日～2019年12月31日)において、関係会社株式売却損176百万円を特別損失に計上する見込みとなりました。